

地球惑星科学委員会（第26期・第6回）

議事要旨

日時 令和6年9月24日（火） 10:00～12:00

会場 オンライン会議（Zoom）

出席者：佐竹健治、三枝信子、沖大幹、小口高、倉本圭、中村卓司、西弘嗣、堀利栄、矢野桂司、藪田ひかる

オブザーバー：田近英一（連携会員）、藤井良一（連携会員）、サイモンウォリス（JpGU 会長）

欠席者：なし

議題

- （1）地球惑星科学委員会関連の分科会・小委員会の活動状況の報告
- （2）地球惑星科学のロードマップについて
- （3）地球惑星科学の大型研究計画について
- （4）地球惑星科学における人材育成について
- （5）その他

資料

資料1-1：地球惑星科学委員会・分科会・小委員会活動報告（夏季部会資料）

資料1-2：JGL（JpGU ユニオンセッション報告）

資料2-1：地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会（第26期・第2回）議事要旨

資料2-2：地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会シンポジウム

資料3-1：地球惑星科学委員会地球惑星科学次世代育成分科会報告

資料3-2：見解「日本の社会・産業をリードする化学系博士人材の育成支援と環境整備～産・官・学一体で取り組む博士人材層強化への流れづくりと博士課程進学に対するポジティブイメージの醸成～」

資料4-1：地球惑星科学委員会地球惑星科学社会貢献分科会（第26期・第3回）議事要旨

資料4-2：見解「より強靱な原子力災害対策に向けたアカデミアからの提案 ― 放射性物質拡散予測の積極的な利活用を推進すべき時期に来たと考えます」フォローアップ・レポート

資料5-1：日本学術会議が加入している国際学術団体の活動状況に関する調査の実施（事務連絡）

資料5-2：加盟国際学術団体対応分科会対応表

資料6：ロードマップ・大型計画

参考資料：報告「地球惑星科学分野における科学・夢ロードマップ（改訂）2020」

議事に先立ち、佐竹委員長から開会挨拶がなされ、今回の議事内容の確認を行った。

（１）地球惑星科学委員会関連の分科会・小委員会の活動状況の報告（資料１－１、１－２）

各分科会の活動について各委員から報告を行った。地球・人間圏分科会委員長である小口副委員からは、委員の追加と公開シンポジウム予定について報告があった（資料２－１、２－２）。地球惑星科学国際連携分科会委員長である中村委員からは、加入学術団体調査予定について報告があった（資料５－１、５－２）。これに関連して、国際加盟団体の予算は確保されていると三枝委員から説明があり、活動調査票には加盟の必要性を十分に記した方が良いことが共有された。地球惑星科学社会貢献分科会委員長である佐竹委員長からは、見解（第 25 期）のフォローアップ・レポートの提出等について報告があった（資料４－２）。地球・惑星圏分科会については議題（３）、地球惑星科学次世代育成分科会については議題（４）を参照。

（２）（３）地球惑星科学のロードマップおよび大型研究計画について（資料 6）

地球・惑星圏分科会委員長である倉本幹事から、活動内容について報告があった。続いて本日の検討事項について説明があり、未来の学術振興に関わる地球惑星科学分野のロードマップ更新の方向性に関する議題が示された。藤井連携会員（第 24 期地球惑星科学委員会委員長）から、夢ロードマップでは 5 つのセクションがどのように融合・連携し、全体として発展していくかのビジョンが入っているので、今回の学術会議でもその方向を踏襲しさらに夢ロードマップを充実してもらいたい、また学会が関与しボトムアップのプロセスを踏んでいる点を有効利用してもらいたいとの説明があった。田近連携会員（第 25 期地球惑星科学委員会委員長）からも、組織のボトムアップでロードマップを作ったということが重要であるので JpGU とぜひ協力すること、また、コミュニティの中の大型研究の位置付け・優先順位が標準化されるよう、コミュニティの合意が重要な指標であることについて説明があった。

地球・惑星圏分科会委員長である倉本幹事から、第 26 期中に夢ロードマップの更新を JpGU と協力して行い、次期に渡って個別の分野を集め、半年から 1 年のスケジュールで進めていく方針が示された。三枝委員から、第 25 期に新たに 19 のグランドビジョンを作ったため、第 26 期は現在のものを精査して必要に応じて更新を行うことが検討されていること、また、文科省の予算要求と結び付くかは別であるとの説明があった。

（４）地球惑星科学における人材育成について（資料 3－1）

地球惑星科学次世代育成分科会委員長である堀委員から、高校地学教員による話題提

供（資料１－２）、地球惑星科学系の専攻長・学科長との合同懇談会等の開催について報告があった。具体的に、合同懇談会ではクロスアポイントメントの人材活用、大学院（修士・博士課程）の充足率、AIによる教育への活用事例、高大連携の実施状況、博士課程の経済的な処遇改善・質保証について議論が行われ、また専攻長・学科長から学術会議への意見及び地球惑星科学系博士人材育成についての指摘がなされたことについて報告があった。続く第三部夏季部会においては、企業と化学委員会による話題提供とグループディスカッションが実施され、人材育成についてコアな議論がなされたと報告があった。

この問題について、地球惑星科学委員会の中でさらなる議論を行った。企業就職が進学目的である工学系とは異なり、理学系は後継者育成が進学目的となっているため学生にとって学位取得後の進路が見えにくい問題に対して、キャリアパスの選択肢を増やし、見やすくすることの重要性が共有された。

博士に対する職業としての魅力が減じている問題に対しては、国・自治体に博士人材を受け入れる仕組みがない現状を改め、データサイエンス分野のように一般職として受け入れる等のルートを作り、学位を取ることにインセンティブを与えるような社会にできないかとの意見があった。企業の博士人材に対するネガティブな印象を減らし、課題解決できる能力を持つ人材であるという認識を高めるべく日本経済団体連合会や企業側に努力していただくしかないのではないかとの意見もあった。

保護者が博士進学に反対する問題に対しては、社会における博士人材の必要性及び将来の安定、大学による経済的サポート等について、企業や学会から周知することが重要であるとの議論がなされた。加えて、必ずしも全ての大学院生が経済的サポートを受けることができている現状を改めるには、学費無償化のような政策を打ち出すことが解決策として考えられるとの意見があった。

また、日本では真実解明を研究の動機として教育しているが、海外では社会に役立つ動機付けが教育の中心であるとの指摘があった。また、早期に研究を始める機会を学生に与え研究への楽しさや自信を進路決定前に身に付けさせることや、米国のように発想の異なる研究者が指導し学生の視野を広げること等が、博士進学希望者を増やす解決策となるのではとの議論がなされた。

その他、後継者を増やしすぎて就職先が保証されないなど、必ずしも全てをお金では解決できない問題が残っている点が指摘された。10月の総会では研究力強化に関わる委員会が立ち上がるので、そちらとも情報共有しながら人材育成についても話を進められることが期待されるとの説明があった。

（５）その他

- ・来年の JpGU ユニオンセッションについて

（セッション提案：2024 年 10 月 1 日（火）14:00～10 月 29 日（火）17：00）

JpGU2025 のユニオンセッションのテーマについて議論がなされ、夢ロードマップを中心に構成する予定となった。コンビーナには倉本地球・惑星圏分科会委員長、ウォリス JpGU 会長、他数名が担当予定。

以上